

Current Medical Economic Problems Associated with Laparoscopic-assisted Colectomies

Seiichiro HOSHINO¹⁾, Masayasu NAITO¹⁾, Kenji MAKI¹⁾,
Tatsuya HASHIMOTO¹⁾, Motomichi NAKAGAWA¹⁾, Yasushi YAMAUCHI¹⁾,
Katsuichi MATSUO¹⁾, Tetsuo SHINOHARA¹⁾, Tomoaki NORITOMI¹⁾,
Hideo SHIMURA¹⁾, Yuichi YAMASHTA¹⁾ and Tomoko NAKAGAWA²⁾

¹⁾ Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Fukuoka University

²⁾ Department of Operating, Faculty of Nursing, Fukuoka University Hospital

Abstract : The treatment results and NHI (National Health Insurance) scores of 7 cases that underwent LAC (Laparoscopic-Assisted colectomy) were compared with those obtained for 31 cases of OC (open colectomy) in order to assess any associated problems. The treatment results indicate that LAC is less invasive, while allowing for an early discharge (27.2 days vs. 18.3 days). LAC has a low total NHI score and a high daily NHI score, thus yielding a reduced economic burden for patients and a more effective use of hospital beds. However, a large number of disposable devices that cannot be claimed by the Japanese insurance system were also used in LAC (¥323,166 vs. ¥47,986), which is economically inefficient for hospital management. Therefore, a further revision of the Japanese NHI system and lower costs such as obtaining high volume discounts are desirable.

Key words : Laparoscopic colectomy, Medical economics, National Health Insurance, disposable device

腹腔鏡下結腸切除術の医療経済における問題点

星野誠一郎¹⁾ 内藤 雅康¹⁾ 榎 研二¹⁾
橋本 竜哉¹⁾ 中川 元道¹⁾ 山内 靖¹⁾
松尾 勝一¹⁾ 篠原 徹雄¹⁾ 乗富 智明¹⁾
志村 英生¹⁾ 山下 裕一¹⁾ 中川 朋子²⁾

¹⁾ 福岡大学消化器外科

²⁾ 福岡大学病院看護部手術部

要旨 : 腹腔鏡手術が消化器外科領域に導入されその対象疾患も増加してきている。今回、腹腔鏡手術が医療経済的にどのような効果をもたらしているのかを結腸手術を対象に検討した。対症は当科で施行した開腹手術 (A群) 31例と腹腔鏡手術 (B群) を行った7例である。手術時間、術中出血量においては両群間に差は無かったが、術中材料費は対手術総点数でA群11.2%の47,986円、B群は59.1%、323,166円よって手術における利益は、A群379,014円に対しB群は223,834円で差し引きA群が155,180円多いという結果であった。入院期間はA群27.2日、B群18.3日であり総入院料は1,347,679円と1,193,821円であった。1日あたりの入院料はA群49,570円、B群65,236円でB群の方が15,666円高かった。空床がなければ現時点の保険制度では両群間のもたらす手術利潤はほとんど変わらないという結果であった。今後、腹腔鏡手技を安定化し Disposable製品の使用の定型化、低コスト化を計ることが必要と考えた。

キーワード : 腹腔鏡下結腸切除術, 医療経済, 保険制度, Disposable製品

はじめに

腹腔鏡手術が消化器領域に導入されその対象疾患も多岐に渡るようになってきた¹⁾。ここ数年の間で診療報酬体系の改善があり保険収載されるようになった術式、追加請求できるようになった手術機材が増加した²⁾。今回、腹腔鏡手術が医療経済にもたらす効果について、結腸癌に対する手術を対象に開腹術と腹腔鏡手術を比較し検討した。

対象

2007年の1年間に当科で施行した大腸癌手術は190例であった。この症例の中で開腹手術と腹腔鏡手術を比較する上で、まず大腸癌ガイドラインで横行結腸癌、下部直腸癌に対する腹腔鏡手術は推奨されていないため、これに該当する症例は除いた。またS状結腸癌に対する手術はその罹患部位で術式が異なりS状結腸切除で保険請求する場合と、高位前方切除で請求する場合があるため、S状結腸癌は除外した。それ以外の症例の中で、上行結腸癌に対する右半結腸切除術、下行結腸に対する左半結腸切除術を選別し、開腹手術(A群)を行った31例と、腹腔鏡手術(B群)を行った7例を比較検討した。また、腹腔鏡手術の適応は大腸癌ガイドラインに従い深達度固有筋層までの症例、すなわちstage までとした。郭清度については腹腔鏡手術症例において低くなる傾向にあり、今回両群間の郭清度の統一はしなかった。検討項目は、背景因子として年齢・男女比・進行度・入院日数を、手術項目として、手術時間・出血量・リンパ節郭清度を、また当院医事課により入院総点数をそれぞれの症例で算出し、その平均を比較検討した。手術に用いる器具の種類は統一化されているので、通常の値段を定価で記載した。数値は平均値±標準偏差で示し、2群間の比較には student-t test (対応のない) を用い p 値0.05 以下を優位差ありとした。進行度、郭清度の比較には²検定を用いた。統計ソフトは Stat View ver5.0 を使用した。

手術前処置、術式

開腹術

手術前処置は術前日昼までの食事とし午後 mechanical preparation として下剤を内服する。基本的に抗生剤の内服はイレウス症状のある人以外には処方していない。手術は臍上下部に渡る皮膚切開を置き開腹する。回盲部から肝弯曲部にかけて上行結腸を授動する。回結腸動脈、右結腸動脈根部が露出するまで剥離し腫瘍栄養血管を同定する。血管を根部で結紮切離したのち腸管の口

側、肛門側最低 10cm ずつマージンを取り、血流をみながら切除ラインを決定する。切除したのちに腸管吻合を行い、洗浄後ドレーンを挿入し開腹する。左半結腸切除術も基本的に同じである。使用する術中用具は表 4 に示す。

腹腔鏡手術

腹腔鏡手術を選択する基準として大腸癌治療ガイドライン³⁾では stage までの症例、すなわちリンパ節転移のない固有筋層までの癌としている。われわれの施設でもこの基準を遵守し症例を選択している。手術数日前に大腸内視鏡を行い病変部位近傍に点墨、あるいはクリッピングを行い術中病変部位確認のための主なマーカーとする。手術前日の処置は開腹術と同様に行う。臍部より open technique にて 12mm ポートを挿入し、気腹を行い広い腹腔内視野を確保する。左右下腹部と左季肋部に 5mm ポートを、恥骨上部にもポートを追加して 5 ポートとする(図 1)。中枢側リンパ節郭清と回盲部授動時には恥骨上部のポートから、回結腸動脈の確認と右結腸曲授動時には臍部から腹腔鏡を入れて良好な視野を得る。腹腔鏡下操作後に臍部ポート創を 4~5cm に延

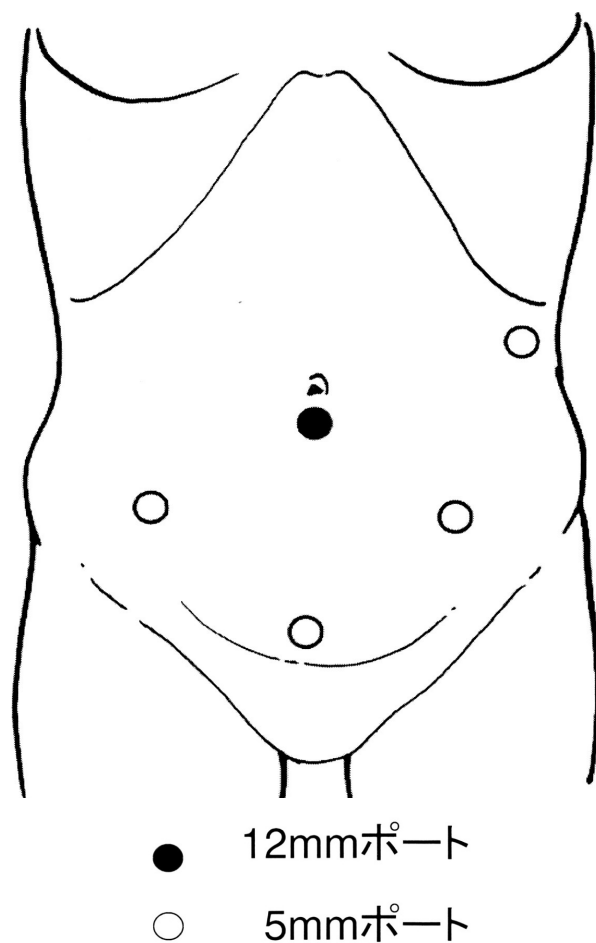


図 1 ポートの位置

長して、病変部腸管を体外に誘導し、腸管切離し物合は体外で行う。また右下腹部ポート創からドレーンを挿入留置する。術中使用する器具、物品を表5, 6に示す。

結 果

A群は男性16例、女性15例で平均年齢は70±13.2歳であった。B群は男性5例、女性2例平均年齢63.6±9.2歳であった。手術時間はA群204.7±82.4分、B群243.3±62.7分(p=0.254)と優位差なく術中出血量はA群189±330.8ml、B群23.6±22.5mlでA群に多かったが優位差はなかった(p=0.199)(表1)。腹腔鏡手術の適応がstageの症例選択の関係で、最終進行度分類ではA群に進行度の進んだ症例が多く(表2)、手術時の郭清度もA群の方がより郭清している結果となった(表3)。

手術請求点数を比較すると、A群の点数は32,700(手

術点数)+2,500(追加材料費)×4の42,700点、B群では41,700点+2,500×4+3,000の54,700点であるが、一方で術中の材料費はA群11.2%の47,986円(表4)、B群は59.1%323,166円(表5, 6)であった。したがって、手術における利益はA群379,014円に対しB群は223,834円で差し引きA群が155,180円多いという結果であった(図2)。入院期間はA群27.2日、B群18.3日であり総入院料は1,347,679円と1,193,821円であった。1日あたりの平均入院料はA群49,570円、B群65,236円でB群の方が15,666円高いという結果であった。

考 察

腹腔鏡が導入されてコスメティックの面からも、術後の手術の侵襲度の点についても優位性があると報告されるようになってきている^{4,5)}。一方、医療経済面におい

表1 対象症例

年齢	性別	入院日数	術後日数	術式分類	点数	リンパ節廓清度	手術時間 (min)	出血量
71	Male	41	31	a	217,875	D3	390	240
82	Female	17	10	a	118,387	D0	218	60
53	Male	13	11	a	99,601	D3	140	60
59	Female	15	15	a	153,303	D2	227	150
69	Female	13	10	a	82,939	D3	240	175
65	Female	23	16	a	112,675	D3	210	200
58	Female	17	13	a	84,156	D3	110	70
63	Female	24	19	a	134,322	D2	250	120
70	Female	24	16	a	123,636	D3	115	95
58	Male	19	14	a	91,705	D3	202	304
83	Male	28	25	a	118,252	D3	180	9
58	Male	20	17	a	122,382	D3	110	155
86	Male	28	16	a	125,994	D3	102	250
32	Male	22	13	a	138,937	D3	325	511
67	Male	18	12	a	107,660	D3	95	50
72	Female	19	14	a	97,396	D2	220	130
59	Male	28	14	a	121,172	D3	130	0
91	Female	16	13	a	79,612	D2	150	30
84	Female	14	12	a	109,385	D3	145	15
74	Female	24	17	a	140,896	D3	240	120
83	Male	79	69	a	332,120	D2	415	1,850
82	Male	63	37	a	222,307	D1	145	50
56	Female	25	15	a	117,678	D3	185	100
86	Female	18	13	a	95,182	D1	230	75
70	Female	16	13	a	122,273	D2	240	75
61	Male	19	15	a	142,089	D3	85	20
56	Male	30	16	a	155,291	D3	320	410
76	Male	19	16	a	101,566	D3	210	30
83	Female	39	31	a	145,758	D2	265	225
83	Male	19	16	a	108,342	D2	198	30
79	Male	92	87	a	254,915	D2	255	250
69	Male	17	12	b	109,112	D2	180	50
71	Male	16	12	b	113,859	D1+	205	35
69	Female	21	14	b	128,284	D2	320	0
53	Female	18	13	b	117,851	D2	185	40
50	Male	12	10	b	112,160	D2	225	40
60	Male	25	22	b	131,965	D2	335	0
73	Male	19	16	b	122,444	D2	253	0

a : 開腹術 b : 腹腔鏡手術

表2 最終進行度

	開腹術	腹腔鏡手術
stage 0	1	1
stage	5	6
stage	9	0
stage a	8	0
stage b	5	0
stage	2	0

p = 0.007

表3 リンパ節郭清度

	開腹術	腹腔鏡手術
D0	1	0
D1	2	1
D2	9	6
D3	18	0

p = 0.009

表4 一般物品金額（外科開腹時）

消毒液	イソジン 150ml	510円
	マスクン 150ml	96円
X線ガーゼ	40枚	600円
ヤンカー吸引		420円
プールサクション		420円
電気メス		2,600円
チップポリシヤ		280円
針立て		130円
メーヨカバー		700円
セフタル	2枚入り	730円
創縁ドレープ		1,800円
切り糸	3-0バイクリル×3	4,950円
吻合用吸収糸	4-0バイクリル×3	18,000円
開腹用糸	1 バイクリル×3	12,900円
スキンステーブラー		3,850円
合計		47,986円

表5 一般物品金額（腹腔鏡時）

消毒液	イソジン 150ml	510円
	マスクン 150ml	96円
X線ガーゼ	40枚	600円
ヤンカー吸引		420円
プールサクション		420円
電気メス		2,600円
チップポリシヤ		280円
針立て		130円
メーヨカバー		700円
3-0バイクリル	閉創用×3	1,950円
スキンステーブラー		3,850円
合計		11,556円

表6 特殊物品金額

バーサポートトロッカー179775P	7,500円
バーサポートトロッカー17910	6,500円
バーサポートトロッカー179103P	7,500円
バーサシール175770×2	5,000円
ハーモニック ACE ACE36P	83,000円
5mm エンドクリップ176620	29,000円
リガクリップ ER320	27,000円
ラップディスク29150010	22,000円
エンドパスサージェリーブローブ EPS03	12,000円
エンドパスサージェリーブローブハンドル EPH04	20,000円
エンド GIA ロティキュレーターカートリッジ×2	60,000円
エンド GIA ユニバーサル本体030449	22,000円
合計	301,500円

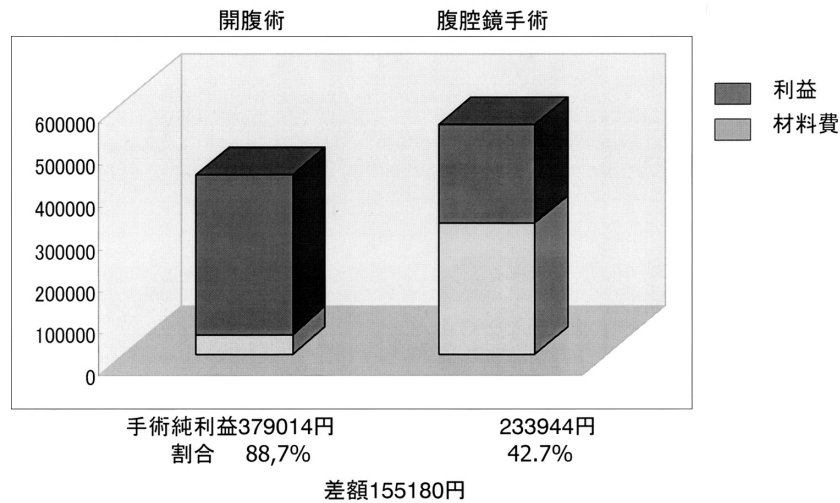


図2 手術時の純利益差

て果たして腹腔鏡がより経済上の福音をもたらしているのかの検討についての報告は少ない。今回、結腸癌の手術症例を用いて経済面を中心に検討した。

手術時間はA群204.7分、B群243.3分と腹腔鏡手術に長い傾向であったが優位差はなかった。これまでの報告例では一般的に腹腔鏡手術の方が有意に長いとするものが多いが^{2) 4) 5)}、今回の検討症例では開腹術の方に進行度の進んだ症例が多く、手術時の郭清度も開腹術の方がより郭清していたこともあり、手術時間差がつかなかったと考えられた。手術の侵襲度は郭清度の違いもあるが、術後入院日数は20.5日と14.1日と腹腔鏡手術の方が短いことから、腹腔鏡手術の方が、侵襲度が少ないため、早期退院ができていたものと考えられた。この傾向は胃癌の検討でも腹腔鏡手術の方が、入院期間が短かったと報告されている²⁾。

手術点数は基本点が9,000点腹腔鏡の方が高く、どちらも追加材料費は最大10,000点（自動吻合器、縫合器分）認められている。しかし、手術材料費の差が大きく275,180円多く腹腔鏡手術の方がかかるため、手術だけの純利益は開腹術が155,180円多いという結果であった。材料費は表4～6に示す通りであるが、腹腔鏡に用いる材料はひとつひとつが高価で材料数の節約も大事である。また今後一つ一つの材料費が安くなる事にも期待したいところである。臼杵ら⁶⁾は施設費、人件費まで加えて報告している。これによると腹腔鏡手術使用の材料、手術時間により、腹腔鏡手術は場合によっては時間が延長するほどマイナス益となるとしている。今回の検討では原価償却費を含む施設費、人件費は算出しなかった。これはパラメディカルの人件費を対手術で出すことが困難であること、また一般に手術費、材料費を月単位で報告し検討されることが多いと考え、純粋に手術点数と材

料費で算定した。

入院総費用は入院日数が腹腔鏡で短いため開腹の平均1,347,679円に対し平均1,193,821円に抑えられていた。これは患者サイドからすれば負担が少なく歓迎されることである。1日あたりの入院費用は開腹群49,570円、腹腔鏡65,236円で15,666円腹腔鏡の方が高いという結果であった。開腹術に比べ短期入院ですみ入院費用がより高額となるということは、入院病床の有効利用の点で利点をもたらすと考えられた。この結果は胃癌で検討された報告と同様の傾向であった²⁾。手術費の差額を1日当たりの入院料の差で割ったあたりは9.9であったが、これは開腹術、腹腔鏡手術の入院日数の差にほとんど一致する結果であるという興味ある結果であった。すなわち、ベッド空床が全くなく、入院が続けば、手術時の利潤は開腹術、腹腔鏡手術間でほとんど差がないという結果であった。

今後は保険点数のさらなる見直し、請求可能物品の増加、材料費の低コスト化、リユース機器の開発に期待するとともに、腹腔鏡手技を安定化しディスプレイ製品の使用を定型化し、低コスト化を計ることが必要と考えた。

文 献

- 1) 猪股雅史, 北野正剛, 白石憲男: 悪性腫瘍への腹腔鏡下手術の現状. 外科治療 90: 7-13, 2004.
- 2) 桑原史郎, 片柳憲雄, 狩俣弘幸, 松原洋孝, 吉田千絵, 野上仁, 横山直行, 山崎俊幸, 大谷哲也, 斎藤秀樹: 治療成績と保険点数からみた腹腔鏡補助下胃全摘の現状と問題点. 癌の臨床 53: 569-575, 2007.
- 3) 大腸癌研究会: 大腸癌治療ガイドライン医師用2005年度版, pp. 15-21, 金原出版(東京), 2005.

- 4) Lacy AM, Garcia-Valdecasas JC, Delgado S, Castells A, Taura P, Pique JM, Vasa J : Laparoscopy-assisted colectomy versus open colectomy for treatment of non-metastatic colon cancer : a randomized trial. *Lancet* 359 : 2224-2229, 2002.
- 5) Milsom JW, Hammerhofer KA, Boehm B, Marcello P, Elson P, Fazio VW : Prospective, randomized trial comparing laparoscopic vs. conventional surgery for refractory ileocolic Crohn's disease. *Dis Colon Rectum* 44 : 1-9, 2001.
- 6) 白杵尚志, 須藤広誠, 柏木博貴, 竹林隆介, 佐野貴範, 赤本伸太郎, 井上達史, 柿木啓太郎, 荻池昌信, 岡野圭一, 他 : 材料費・人件費および施設の将来設計をも加味した大腸癌手術療法の経済学 . 第70回大腸癌研究会会誌 33, 2009 .

(平成20.10.27受付, 21. 2.27受理)